

令和 5 年度事業報告書

社会福祉法人温光会

特別養護老人ホームみはま苑

I. 法人

1 理事会・評議員会・監事監査等

I) 理事会

① 令和 5 年 5 月 28 日

- *職務執行状況の報告について
- *監査報告
- *令和 4 年度事業報告について
- *令和 4 年度決算報告について
- *次期役員候補者の決定及び評議員会への提案について
- *評議員会の招集について
- *次期評議員選任解任委員の選任について
- *その他

② 令和 5 年 6 月 18 日

- *職務執行状況の報告について
- *評議員会決議事項の報告について
- *理事長の選任について
- *経理規程改正
- *非常勤職員の就業規則の改正
- *育児・介護休業等に関する規則の改正
- *その他

③ 令和 5 年 12 月 10 日

- *職務執行状況の報告について
- *令和 5 年度第 1 回補正予算
- *経理規程の改正について（経理規程第 59 条 15 項）
- *経理規程の改正について（経理規程第 32 条 2 項）
- *経理規程の改正について（経理規程第 23 条）
- *旅費規程の改正について
- *特養・短期入居者の食費の価格改定について
- *介護ロボットの導入について
- *その他

④ 令和 6 年 3 月 24 日

- *職務執行状況の報告について
- *令和 5 年度第 2 回補正予算
- *令和 6 年度事業計画について
- *令和 6 年度予算について
- *非常勤職員の就業規則の改正について
- *その他

2) 評議員会

① 令和 5 年 6 月 18 日

決議事項

- *令和 4 年度事業報告について

＊令和４年度決算について

＊次期役員の選任について

＊その他

3) 監事監査の実施

① 令和５年５月２７日

飯塚智子監事 平川和江監事

2 監査指導等

千葉市総務課監査指導については、新型コロナウイルス感染拡大防止で数年指導はありませんでしたが、令和５年度は午前中でしたが、８名の体制で来苑指導されました。

1) 千葉市保健福祉局監査指導室

令和５年８月２９日

- ・書面指摘事項は、評議員１名が２回欠席したことについて改善すべきとの指導でした。次回から日程調整を適切に行い、指導に従うよう努めます。

2) 千葉市実地指導・集団指導

- ・特養他の集団指導については、令和６年３.25付け、千葉市介護保険事業課長名のメール、『令和５年度千葉市介護保険事業者説明（集団指導）』で、４/30までに、ちば電子申請サービスで確認、報告することにより、集団指導の代わりとするという通達があり、各部署通達に従って報告しました。
- ・あんしんケアセンターの集団指導は、R5.12.11 オンラインで実施。（千葉市地域包括ケア推進課）

3) 千葉市保健所指導（栄養課）

- ・令和６年１月１０日 給食施設（厨房の食品衛生管理・給食の栄養管理）点検

Ⅱ・施設

1 健康管理

1) 回診：毎月曜日

特養入所者主治医 田中医師 協力病院（千葉みなと病院）
（R6・3・18より 同病院 白藤医師に交代）

2) 入所者健康診断：轟診療所来苑 令和５年１０月６日

3) インフルエンザ予防接種：令和５年１１月１日（利用者）
同年１１月２１日（職員）

4) 職員健康診断：令和５年４月１４日・１０月１０日 轟診療所来苑

- ・職員健康状態については、千葉みなと病院の西村佐和子医師（産業医）に相談しています。

毎月衛生委員会を開催し、職員の健康状態や勤務について現場責任者から、情報を得て対応しています。

- ・苑内喫煙全面禁止（令和２年７月１日付）以来、令和５年度も継続中。

5) 感染症対策委員会：

H.25 年度のノロウイルス集団感染以来、定期的・臨時的に委員会及び研修会を開催し、細心の注意をはらってきました。施設設備等の日常の消毒は、現在も、1日2回行い、職員・業者他の入館時の手洗いうがいの徹底など継続しています。千葉県介護保険事業課より、PCR検査、途中からは抗原検査が月2回実施され、安心して業務にあたる一助となりました。5月からは5類とされ、発熱の場合、通達を踏まえて出勤の可否を決定しています。また、ワクチン接種は、協力病院の協力でスムーズに実施することができ、希望者にはR5年度中に7回までの接種が終了しています。なお、令和5年度では、感染による事業の長期休止等はありませんでした。

2 衛生管理・安全対策

- 1) 消毒 (R5.6.19 R5.12.4 通常の消毒)
- 2) 水質検査 (R5.6.16) および受水槽清掃 (同)
- 3) レジオネラ (R5.8.28) 簡易水道検査 (R5.12.25)
- 4) 電気保安協会 (隔月) 4/29 土曜日に停電状態での点検
- 5) 防災機器点検 (R5.8.28 R6.2.29)

および避難訓練 (R5.8.17 デイ 認知デイ 9.9 特養 9.24 認知デイ R6.2.24
デイ 3.25 夜間想定 3.10 ミニデイ 10.17)

緊急連絡網訓練 (R5.7.5)

- 6) エレベータ・ダムウエーター検査 (毎月)
- 7) 建物検査 (R5 年度実施不要)
- 8) オゾン・濾過機・ボイラー・エアコン・換気扇・自動ドア・発電機
AED・大型洗濯機・乾燥機等の点検整備 (3ヶ月～1年に1回)
- 9) 床・網戸・ガラス等の清掃・植木剪定
東京サンブライト カーテンクリーニング (R6 年契約更新)
- 10) デイバス車両点検 デイバス 5641 8925 3455 1671
車検：デイバス 1671 3455 ヘルパー車
- 11) 防災倉庫点検 (年2回)
- 12) 安全運転管理者講習 (R5.4.22) ?

8/18 磯辺地区にてデイ管理者運転の車両の出会い頭の衝突事故発生物損

3 新規事業および検討・継続事業

- ① R4 年度末に、特養“菜の花園”にて、パラマウント「眠りスキャン」見学
(副施設長&特養管理者)し、デモ機を10台試し、検討の結果、導入決定。
12月25・26日、特養10台、SS4台導入。
- ② パラマウント 3モーター電動ベッド KA-N1310J 低床 16台 他
(CWの腰痛対策として、低床電動ベッドへの切り替え実施
5年契約 R2.11.30 開始) 4年目

4 採用・人材育成

【参加したフェア】

R5.4.22 人材センター 福祉のしごと就職フェア（京成ミラマーレ）

⇒高卒新人採用 1 名

R5.11.10 労働安定センター 就職フェア

R5.11.30 ハローワーク千葉 介護就職デイベア

R6.3.3 ちばふくフェア（千葉市）ペリエホール ⇒中途採用 1 名

R6.3.6 マイナビ 2025 福祉・介護業界就職セミナー（国際会議場）

【内定・採用行事】

R5.4.1 新卒辞令 全体オリエンテーション

R5.10.15 内定式（男子高校新卒 1 名）

R5.11.30 採用内定（中途採用男子 1 名）

R6.1.1 採用内定（中途採用・ネパール男子 1 名）

R6.2.8 紹介予定派遣⇒採用（中途採用女子）

R6.2.9 内定者懇親会

R6.3. 知人紹介⇒採用内定（中途採用男子 1 名）

【採用関連外部研修】

R5.4.19 （社協）接遇マナー：新任 2 名

【その他新卒情報】

次年度に向けて、1 名の高校生の採用が可能になりました。

今後も、丁寧な高校訪問を持続しつつ、築いてきた関連機関の方との関係を大切にしていきたいと考えています。

なお、R5 年 4 月採用の新卒女子のうち 1 人は、早々に連休明けに退職。若者の行動規範の変化を痛感した一年でした。同時に、親も子も規範意識が緩くなっていることが、背景にあるように思われました。

5 地域交流・幼稚園交流：

2000 年 4 月にオープンした特別養護老人ホームみはま苑は、幼稚園と隣接する施設であることなどの特徴を生かし、苑の独自性を保ちながら力を合わせてよりよい施設になるための努力をしたいと常日頃考えてきました。新型コロナウイルスの感染対策で一切の交流が持てなくなったことは、みはま苑らしさがほとんど失われたということです。お年寄りにとっては、コロナ禍の数年、かろうじて、園庭の園児たちの歓声を聞き、様子を窓から見るのできるのが、唯一の癒しだったのかもしれません。本年度は、以下のように、“交流はやや復活”というところまでこぎつけました。

- ・夏祭り・納涼祭を復活させました。敬老会は、園児たちからのプレゼントを手にしてとても喜んでいました。一緒に歌を歌ったり手遊びができて涙をこぼしている方もありました。
- ・華道（華生クラブ）や書道クラブもすばらしい指導者（ボランティア）にめぐまれて復活・継続できました。“みはま苑書道展”は、高洲のコミュニティセンターで原先生との最後の展示会を開催しました。趣味を生かした多彩なボランティアの方や傾聴・将棋など、多数ご来苑頂ける日がくることを切望します。ちなみに、介護相談員からは SS 利用者の方の声として、「ここは、何もやらないから、つまらない」といわれたと聞いています。
- ・特養の面会も特養ブース使用で安全を確保しつつ実施しており、それなり的人数をお受けできているようです。更なる改善を工夫して行きたいと思ひ

ます。

- ・今年度は、千葉市介護相談員さんも毎月来苑され、前例のように入居の方々のお話を傾聴していただいたり、意見をうかがってくださったりしています。缙いボランティアさんなどにもきていただき、他の人の目が入ることで安心な部分も増えていると考えています。
- ・幼稚園のお誕生会や運動会に特養の方が招待され、一日動物村にも参加できました。デイサービスは、2月のおみせやさんごっこに“品物”を作って準備しましたが、コロナ濃接者が出て、大事をとって、委託販売となりました。それでも『指輪』など、大人気で列ができ、すぐに完売しました。

★こうした中、広報誌 19（2023.11.1 発行）は、「新たなる日常への“はじめのいっぽ”」という統一テーマでした。

新型コロナウイルスも5類に分類され、「新たなる日常へ、みんなと一緒に踏み出して行けるように、未来に向かって希望をもって進もうよ」という強いメッセージをもって編集しました。

ケアプランセンター主任介護支援専門員芝崎神奈編集委員長中心に、無事、発行できました。利用者さんや地域のかかわりのある事業所などにもお配りしています。

6 研修について：

コロナ以前は、権利擁護・虐待防止・身体拘束ゼロ、認知症、感染症に関しては、内部・外部研修の形で積極的に研修に参加してきましたが、ここ3年、いろいろな試みを経てコロナ禍でも研修に参加しやすくなりました。ケアマネ現任研修や、各専門分野の研修にもオンライン等で研修が可能になりました。昨年度念願の看護師の喀痰の吸引等指導者養成講習も受けました。

虐待・身体拘束・事故防止・感染症等の内部研修については、リモートなどでも実施してきました。

当法人独自の資格取得支援制度（介護職員初任者研修、実務者研修）を活用する職員も数名ありました。

7 安心・安全・人権

事故防止委員会：

すり落ちなどについては、利用者の行動が予測できるよう、利用者を十分理解し、事故を予測する力を身につけるよう努めています。同時に、不穏にならないようにする中で事故発生を抑制できるようにとも考えています。嚥下障害の方も多いので、ギャッチアップの角度など再点検して、リスクマネジメント研修は徹底して行きたいと思います。新人もいる中、定期的にデータ分析を行い、ヒヤリの事例を生かして介護職員が共通理解をして、日々地道に、科学的に介護して行くことが重要なのだと捉えています。

虐待防止委員会：毎月の責任者会議で虐待の有無を確認し、職員には、内部研修に積極的に参加できるようにしてきました。ともすると生じる言葉による暴力も看過できません。内部研修でも事例を取り上げつつ、誠意や配慮が足りなければ虐待と取られかねない事例もあるということを教訓にして、また、虐待の意図がなくても介護をスムーズにすすめるために、介護拒否する手を

やむなく抑え込んだりすれば虐待につながるので、より一層意識し、誠意を持って、かつ、家族と行き違いのないように、できるだけよい信頼関係を築くことを申し合わせています。

苦情対応について：

千葉市の介護相談員（月 1 回来訪）派遣事業に基づき、2 名（五十嵐多喜様・渡邊せい子様）の相談員さんが、本年度、4 月より毎月 1 回 計 12 回の来苑となりました。第三者委員の方々や、『ご意見箱』からは、苦情としてあがったものはありませでした。苦情対応には誠意を持ってあたり、日々、コミュニケーション不足になりがちなケースほどコミュニケーションが必要ということ肝に銘じねばならないと思っています。とくに対面でない故の行き違いに注意し、丁寧に対応する必要を感じています。苦情についての研修にも積極的に参加しています。

8 収支概要

コロナ補助金がなくなりましたが、物価高騰対策支援金やロボット導入補助金などにより、また、処遇改善関連の補助金によって、法人全体では、赤字にならず運営が持続できました。

- ① R5 年度は、前年度後半より引き続いて、電気代とガス代がこれまで経験したことのない高額になりました。2000 年の開業以来の高騰です。食料品などの日常の物価も高騰しました。これに対して、県より、特養は、1 人 2 万 5 千円×人数（当苑 50 人）ということで、125 万円補填して頂きました。デイサービスの 40 万円を合わせて、165 万円でした。

（令和 5 年度社会福祉施設物価高騰対策支援事業）。

千葉市は、障害事業所等物価高騰対策支援金としてデイ他 5 部門について、計 174,000 円の補助額でした。（別紙 1）

- ② 特養は、長期入院や入院者数増加などの変動が少なく、比較的収支が安定していたと思われます。
- ③ デイサービスは、コロナ以前から減収傾向にあり、外からは一種のマンネリ化とみられてはいないか心配でした。内側からの原因究明ならびに抜本的な改革を図るべき時が来ていると考え、ニーズの把握、分析の徹底に力を入れました。認知デイの利用者にとっても小規模多機能施設など宿泊可能な居場所の利用が容易になったことが、一因です。地域的に在宅介護の家族的マンパワー不足により、夜間、在宅で認知症高齢者を支え切れなくなってきて、認知デイの需要が減ったと考えています。1 日 3～4 人が冬場の平均人数でした。やむなく、新年度には、認知デイは閉鎖し、一般デイを月～土リニューアルオープンできるように準備することと職員全体で決定しました。
- ④ ヘルパーステーションは、件数減とくに身体介護が減ってしまったことが減収につながったとみています。

大きな影響が出たのは、いずれも在宅サービスでした。

創立後 4 半世紀とコロナ以後の大きな転換の時期という中で加算をしっかりとれる内容の充実した法人に変身することが必要です。それには、理念に沿っていくつかテーマを設定し、研修によりみんなのものになるように、内側から変えて行かねばならないと考えています。

経費削減：

数年前の節約タイプで効率の高いエアコンの設置や、災害時の水の確保と日常的な電力の経費削減の意味で自家発電機を設置したこと、および一部LED切り替えなどにより、水光熱費の幾分の経費節減になっていました。ところが、本年度は、対外的なエネルギー状況がシビアになり、価格が高騰し、とくに都市ガス・電気は20～50%の値上がりとなり、節約にも限度がある状態で、対策に悩んでいます。

水道料については、厨房の水の使い方や入浴の際の水の使い方が今後の課題の一つと考えています。また、今後の大きな課題の一つとして、オムツの適正使用、ゴミの出し方などコスト削減とよりよい介護を連動させたコスト意識を持てるようにする取り組みが必要と考えています。紙ごみでは、雑紙を分別することによって資源扱いになることも意識したいものです。

それ以上に、特養利用者数、デイサービス利用者数、ショートステイ利用者数の変動も経費に大きく影響を与えることは近年の報告書に記載してあります。時々感染者がでたヘルパーステーションもここ数年では最も収益が上がりませんでした。ショートステイも安全を担保しつつどう対応すべきか、どの部門も継続への挑戦です。

修繕費の増大： 貯水槽漏水修理、3F 水漏れ修理パイプ交換、食洗器修理 LED 交換、ダムウエイター修理、ホシザキ部品交換、浴槽漏れ、受水槽排水パイプ、地下ピット、排水管交換等々、創立 23 年を経て、設備の老朽化による修繕費及び印刷機他買い替え費用なども嵩んでいます。（別紙 2）

処遇改善・特定処遇改善・支援費

令和 5 年度は、①介護職員処遇改善加算、②介護職員等特定処遇改善、③介護職員処遇改善支援補助金の処遇改善がなされました。令和 6 年度には 1 本化される予定です。本法人の支給額は、以下の通りと決定し、公表しました。

①の取り組み内容としては、特養・ショート常勤介護職員に、一律月額 35,000 円（但し余剰が出れば分配するので、実際には、48,000 円/月）、非常勤介護職員に 時 280 円/h、デイの常勤・非常勤職員に 210 円/h、（土・日 230 円/h）、訪問介護常勤・非常勤 300 円/hとしました。但し、デイサービスは、収支の状況により途中 2 月より半額に変更。

②としては、経験・技能のある介護職員 月額 7,000～30,000 円
その他の介護職員 月額 3,000～27,000 円
特養にかかわるその他の職員 月額 5,000～10,000 円

③ 特養・ショート・デイ介護正職員 7,000 円/月

その他部門で特養関係業務を行った正職員（3,000～7,000 円）
介護非常勤 特養・ショート 50 円/h、デイ 30 円/h、訪問介護 50 円/h （令和 6 年 2.3 月分）

9 社会貢献：

車椅子 無料貸し出し

平成 28 年 1 月より車椅子の無料貸し出しを開始。令和 5 年度は、注意深く再開しています。全体にはコンスタントに貸し出しています。

あすなろ塾

平成 28 年 2 月より少しでも子どもの貧困の連鎖を断ち切れるようにと学習支援を開始し、7 年経過しました。コロナ自粛で R5 年度はリモートでの実施を含め、担当職員、千葉大学学生のアルバイト、教育経験者によるボランティア職員ボランティアなどにより、週 2 回（火・金）みはま苑あすなろ塾の活動を実施・継続してきました。コロナ禍で食事の提供は中止し、現在に至っています。リモートや通塾で頑張ってきました。ハンディキャップ児も情緒がかなり安定してきて、中学生となり、数学など、自信もついてきたように思います。

社会福祉充実計画

平成 30 年末、『社会福祉充実計画』の策定について厚労省より行動計画が示され、5～10 年の長期的な展望にそった計画案の提出を再考しています。当法人は、平成 29 年度実施の大規模修繕以外に、介護保険で覆いきれない、しかも『福祉』の範囲で実施すべき仕事を、精査して決定して行こうと考えてきました。当面の考えとしては、以下の通りです。

*“みはま苑学習塾あすなろ”の実践を継続し、ささやかではあっても、子どもたちを貧困から守るツールの一つになればいいと考えています。

社会で生きて行くために必要な技術や考え方を学べる高校に入学できる学力が身につくための居場所になるよう粘り強く一緒に問題を解決したい。

*ロボットや IT 活用によるバイタル自動化の方向及び、ロボットによる傾聴や、見守りなど、一部導入を試みました。今後、この分野の可能性を積極的に探る必要があると考えます。

*ミニデイ運営の黒字化：ミニデイは、R3 年末に隣接のスーパーが撤退し、第 1 ショッピング自体が一段と集客力が落ちたことの影響が大きいと感じていること、管理者の体調不良等内部事情により週 4～5 回のオープンが困難とスタッフ自身を感じてきたこと、千葉市では要支援から要介護に変更になるとミニデイが利用できなくなることに対応する措置が取られていないこと、近隣のミニデイの競争力が上回っているとの声が聞こえる中で、存続できるか正念場を迎えています。

本来、最も後期高齢者人口が多くなる 2025 年に向かってできるだけ精神的にも身体的にも自立して、身の回りのことが自分でできて、歩けるままでいられる層が一定程度保たれるようにしたいと考えていました。

それによって、国や自治体が負担する高齢者経費が抑制され则认为、各高齢者自身にとっての幸福と自立を大切に福祉につながるようにと始めたわけですが、毎年 800 万～500 万円の赤字では小規模法人としては限界です。懸案の週 5 日オープンが当面の課題です。あんしん高洲や居宅の協力を得て存続を図りたいと考えています。

*当法人も特養にふさわしい土地が入手できれば、特養を新築し、運営することができ体力がついてきたとは思いますので、市のご指導にそって、

今後、新特養も視野に、努力したいと思います。

10 千葉市あんしんケアセンター高淵

JR 稲毛海岸駅前のビルに移転して 4 年経過しました。

スタッフに予防プラン専門のスタッフも加わり、場所も駅前で、より充実した社会貢献のできるセンターになりつつあると認識しています。コロナ禍で出来なかった活動やネットワークもほぼ復活して、総合相談はコロナ以前よりも件数が増え、困難ケースが多くなり、多忙を極めています。市の方針で、当センターは、次年度、もう 1 名社会福祉士増員の意向です。

(文責 長谷川深雪)